

# みみょう幼稚園だより



## 平成から令和へ

いよいよこの5月より、「令和」という新しい時代が幕を開きます。テレビや新聞などにおいても、平成がどんな時代であったか、令和はどんな時代にしていくべきか等、様々な立場の人たちの意見や感想が報道されています。子どもたちにとって、身近な大人の責任の重大さは、どんな時代においても変わるものではありません。社会の一員として、保護者として、家族として、幼稚園の保育者として、今、何をすべきか、考えるべきか、留まるべきか…等等、一生懸命、判断しながら日々を過ごしていきたいものです。



お砂でケーキができたよ。  
「せんせいも食べていいよ。」

子どもたちは、ご両親や身近な私たちのことを本当によく見ています。感じています。そして、模倣し、自身の個性として取り込んだり、身につけたりしていきます。命の大切さや平和の尊さを様々な災害も経験しながら実感した平成に育ち、生活を営んできた私たちです。次世代を担う子どもたちが、豊かな体験や温かい心のふれあいをしっかりと味わうことのできる日々を積み重ねていけるように、大人こそが夢を持って、心豊かな日常を求め続けていかななくてはならないと、改めて感じています。



4月のお誕生会で全員集合。さくら組さんもしっかりとお話が聞けました。

早いもので、新年度が始まってから、あっという間に5月を迎えます。新しいお友だち集団、初めてのお部屋、そして担任の先生との出会い…。4月からの環境の変化は、子どもたちにとって、本当に劇的で、緊張やどきどきハラハラの毎日だったに違いありません。疲れも出てくるころだと思います。特に年少さんの中には、初めてお父さんやお母さんから長時間離れて過ごすことになったお子さんも多くおられます。生まれて初めて味わう試練に立ち向かっているといても過言ではありません。「お母さんがいい、お家がいい」と泣いて訴える姿は当然の姿でもあります。先生たちは笑顔で温かく抱きしめながら、しっかりと受け止めています。あせらずゆっくりと一人ひとりのペースを大切に日々の保育を進めています。「幼稚園楽しい！」「幼稚園大好き！」が聞けるのを楽しみに心をこめて頑張っています。

あらゆる教育機関や教育的環境は、子どもたちがやがて一人の人間として自立し、社会を形成する一員となるための力をつけていくことを目指しています。乳幼児期はさらにその前段階の土台づくりをする重要な期間となります。幼稚園での一日一日ほど、子どもたちの成長を実感できる時期はありません。保護者の皆様と、小さな変化や成長もしっかりと共有しながら、喜びあいながら、このかけがえのない期間を大切に過ごして参りましょう。

園長 三上 玲子